

山田全日遊連理事長、「新たな5号機の開発」で所感語る

全日遊連の山田茂則理事長は去る12月5日開催された全国理事会の席上、パチスロ5号機の売り上げ減少問題に触れ「最優先すべきは、来年新たな5号機を生み出せるようにして行くことである」と、所感を下記のように語った。

1、業界、どこからも聞こえてくるのは、悲鳴ばかりである。この実情をどうやって脱出するのか、何に立ち向かっていくかということは極めて重大なことであり、全日遊連が果たさなければならない大切な事だ。

1、今、この苦境の大きな原因の一つが5号機にある。全体が5号機になったことで、パチスロの売り上げがほぼ半分に減少し、店全体としては、30%くらい収益が落ちてしまったということが聞こえており、5号機を何

とかしてくれをいう強い要望をもらっている。先日の全日遊連執行部と日工組、日電協執行部との協議の中でも、5号機問題を議論してきた。

1、我々としては今、業界がどんなに困難な状況にあるのか、また、客が5号機に対してゲーム性が足りない、遊技性が足りないなど、どれだけ不満足であるかということを強調していきたい。

1、これら5号機の現状を出来るだけ早く取りまとめ、ゲーム性豊かな多様性のある遊技機の実現に向け、早急に文案をまとめて陳情していきたい。

1、今、最優先すべきは、来年新たな5号機を生み出せるようにして行くことであると思う。今後の活動に意見・要望があればお願ひしたい。

リカバリーサポートの上半期、報告 相談件数は401件で前年同期比188件の減少

はるかに依存問題の相談機関「リカバリーサポート・ネットワーク」の平成19年度上半期の活動は、相談件数（4～9月まで）が前年同期比で188件減少し401件となったが、相談者の内訳は「問題を抱える本人」からの相談が昨年より増加し、全体の半数を占めた。全日遊連の記者会見の席で明らかにされたもの。

昨年は設立当初にマスコミ等に取り

上げられたこともあり“相談経路”は「新聞」が25%と最も多かったが、上期の“相談経路”では、「ホール内ポスター」が31%と最も多く、次いで「新聞」(19%)、「インターネット」(18%)の順となった。しかも当初の相談の多くが、問題を抱える人の家族からの相談が多かったが、全日遊連の告知掲示ポスターなどの影響もあってか「本人」からの相談が昨年より増加した。

回胴遊商、「幼児車内放置」特別巡回期間で1件、事故を未然防止

回胴遊商は去る7月1日から8月末まで「幼児車内放置ゼロ」巡回活動の「特別強化期間」における実施結果を発表した。

それによると、「中部・北陸地区で1件の幼児車内放置が発見され、事故の発生を未然に防ぐことが出来た」とことが報告された。7月中旬頃、愛知県

名古屋市内のホール駐車場で、エアコンをつけたまま鍵ロックされた車が止まっており、スマートフィルムの貼つてある窓越しに車内を覗くと、後部座席でチャイルドシートに座らされた3歳くらいの男の子が眠っているのを見つけたので、ホールに連絡して保護者をアナウンスで呼び出してもらった